

伊集院高校一年生に 国語科から贈る

休校中に楽しむ 伊高生の知らない古語辞典の世界!

高校生になると、古典の学習が本格的になります。

古典の勉強を楽しみながらできると、古典の学力向上にもつながります。

古典に親しむ第一歩は、古語辞典に慣れることです。

そこで **伊高生の知らない古語辞典の世界!** を紹介します。

※実際に辞書を引いて空欄を埋めてください

(推薦辞書の『旺文社全訳古語辞典』に対応しています)

臨時休校になって、朝いつまでもダラダラと布団の中にいるのは、約一千年前の平安時代のご先祖様に申し訳ない。そこで古語辞典を使って平安貴族の生活を調べよう!

巻頭カラーページの1ページには

「平安時代の天皇・貴族・女房の一日」をイラスト入りで紹介しています。

平安時代もみんな結構忙しい。貴族は牛車（a読み）

（で参内（宮中に出

かけること）しなければならぬし、天皇も昼の御座（b読み）

（での儀式

が待っている。貴族が夜、女性のもとに通うが日課になっているのも面白い。さて、

このイラストの中で現代の女性と同じように、朝から化粧に時間をかける「女房」という人たちがいるが、これは貴族の奥さんたちのことだろうか。

そこで疑問に思ったら、早速辞書で「女房」を引いてみよう。

「女房」を引きましたか？ 古語辞典を引くポイントは「歴史的仮名遣い」。女房

は歴史的仮名遣いで「にようばう」と書きます。さて意味を確認すると

「女房」の意味①（

②（

とあって、現在の「妻」という意味は③番目に出てくる。平安時代ではほとん

ど①・②の意味で用いられていた。ちなみに、源氏物語の作者（c

）も、枕草子の作者（d）もこの「女房」です。

この「女房」は辞書で引くのにそれほど迷わなかったと思いますが、

それでは中間考査の範囲になっている「児のそら寝」の出典「宇治拾遺物語」。これを辞書で引いてみてください。授業で引いた人もいると思いますが・・・。

これがなかなか見つけられません。ポイントが「歴史的仮名遣い」。実は、この「宇治拾遺物語」、歴史的仮名遣いでは「e

（教科書P237にふりがなが

ついていますが」と表記します。「うじ」で引くと出てこないのを探し出せないことが

あります。古語辞典のP201に「宇治拾遺物語」があります。せっかく見つけたら、

宇治拾遺物語の成立時代・作者（编者）・ジャンル（文学的分類）を必ずチェックし

てください。中間考査にも出題します。

「宇治拾遺物語」の

成立時代は(f) (時代、編者は(g))。未詳とは、まだはつきりとわかっていないということです。ジャンルは(h) ()。説話とは、庶民の間に伝わる神話や伝説・民話などの昔話のことをいいます。

さらに、宇治拾遺物語の説明を読んでいくと、本朝(|| i) ()・天竺(|| j) ()・震旦(|| k) ()の説話が収められていることが書かれている。西遊記でおなじみの「天竺」や「震旦」のこともこれをきっかけに覚えてください。

他にも古語辞典には、お得なコーナーがたくさんあります。

図解説のコーナー

辞典には、他にも古語に関連した「ことば」に関わる様々な情報が載っています。まずは**図解説**。例として「歩く」を辞書で引いてみてください。実は「歩く」は古語では「ありく」と読みます。実際に「ありく」を引くと、P97に「(一) ()という意味と、P98に**図解説**として「ありく」と「あゆむ」の違いについて、**図解**でわかりやすく説明しています。

続いて

語の広がり

次に、「顔」を辞書で引いてみてください。どうですか、引きましたか。実は「顔」も歴史的仮名遣いでは「かほ」になります。するとP359に「顔」の説明と一緒に「語の広がり」「顔」というコーナーがあります。するとそこには、日本語から生まれた世界の共通語「かわいい」の成り立ちが詳しく書かれています。「顔映ゆし」から「かはゆし」になり、「(m) ()」という意味に変化したことが書かれています。ということは、平安時代も「小顔」を「かわいい」と感じていたのでしょうか。

最後に

古語ライブラリー

英語の授業では、ニワトリの鳴き声を cock-a-doodle-doo と習ったと思います。しかし、古語辞典のP811 **古語ライブラリー**を引いてみると、なんと

奈良時代のニワトリの鳴き声は「(n) ()」馬の鳴き声は「(o) ()」だった。

たしかに、現代語でも馬が鳴くことを「いななく」といいますが、この「いななく」の「い」は馬の鳴き声だそうです。ではなぜニワトリや馬の鳴き声が「かけろ」や「い」になるかは、古語辞典のP811 **古語ライブラリー**③①「鳥獣の鳴き声」で調べてください。

他にも**敬語ガイド**・**名文解説**・**発展**など、古語辞典には古典を楽しむためのことばの情報が盛りだくさんです。

授業や予習で、そしてこの臨時休校中も、どんどん古語辞典を引いて、あちこち辞典の中で寄り道をして、古文を楽しんでください。